

『まちがい』

君の為なら死ねるって 本気で言えた僕なのに

君の為に生きようと どうして嘘でも言えなかったのか

何があっても守るって 素直に言えた僕なのに

永久とわに共に過ごそうと どうして無邪気に言えなかったのか

私は守られたい訳じゃなくて ただ一緒にいたいだけなのか

泣き笑いめいた顔の君を どうして抱き締められなかったのか

真実だけが愛の証明と 現実を見ずに僕は一人

背後に庇った君の姿を 振り向きもせずに僕は一人

私が悪いのと去っていった君の背中を

僕はぽつんと見つめていた